

TOKAI ASAHI

朝日新聞

2018年7月15日

先端人

サボテン強さの秘密は

乾燥や高温に強く過酷な環境で育つサボテン。日本では観賞用のイメージだが、中南米では食用のほか、家畜の飼料やサプリメントなどに幅広く利用されている。国際機関も乾燥地域の食料不足の切り札として注目。「驚異的な強さの秘密を明らかにし、食料問題の解決や砂漠化防止など人間社会に役立てたい」

食用サボテンの生産性を上げようと、室内でLEDを利用した水耕栽培の実験に取り組む。植物工場での栽培を目指し、効率よく育つ温度や光の条件を探る。2016年には、屋外で育てるより高い抗酸化力を持つサボテンが育つと明らかにした。

根から養分を吸収する力を利用して汚染土壌からヒ素やカドミウムなどの重金属を取り除く浄化技術に応用できると期待する。強さ

園芸学

中部大講師 堀部 貴紀さん (32)



岐阜県出身。今年4月から中部大講師。趣味は日本拳法や柔道。最近では道場に行く時間が取れないため学内のジムへ行くことが多い。週4回、実験の待ち時間などに、学生と行くこともあるという。

の仕組みの解明に向け、遺した。とにかく強く、生命力伝子の機能を調べる基本技術の開発もめざしている。

名大でバラが開花する仕組みを研究して修士号を取得。岐阜放送で報道の仕事に携わったが、約1年後、研究の世界に戻った。博士課程在学中に中部大キャンパスがある愛知県春日井市の特産のサボテンと出会った。

「とにかく強く、生命力にひかれる」。自生のサボテンを見ようと米アリゾナやメキシコに足を運んだ。多くの人に魅力を伝えようと、地元生産者らと地域おこしで連携。メキシコとの交流にも力を入れる。「サボテンをきっかけに、映画や料理などで文化交流できたら面白い」 (西川迅)